

令和7年12月 報道機関との定例懇談会 要旨

- 1 日 時 令和7年12月2日(火)13:15~14:15
- 2 会 場 市長応接室
- 3 参加者 報道機関10社、市側
- 4 懇談の概要

(1) 情報提供項目

久慈地域障がい者アート作品展及び第九演奏会、久慈市市制施行20周年記念式典など、市長から8件お知らせした。情報提供項目終了後、遠藤市長の進退に関する説明および質疑応答が行われた。

(2) 記者との質疑応答

今後の県立高校に関する地域検討会議について

記 者 16日(火)に開催される県立高校に関する地域検討会議について、市長が出席されるとのことであるが、学科の集約が示されていることへの受け止めと、会議で県に対してどのような点を伝えるのか伺いたい。

市 長 高校再編については、これまでも県から説明を受けており、会議も重ねられてきた。今回が3回目となる。久慈翔北高校の水産系と食物関係の学科については、一部時期の延期の話は聞いているが、再編の方向性自体は県の方針として変わらないとの説明であった。

以前から申し上げているとおり、水産業や調理など食物関係の分野は、後継者育成のために極めて重要なコースである。これが宮古に集約されるとなれば、市内の子どもたちにとって大きなマイナスである。宮古への毎日の通学は、車でも片道1時間以上、三鉄を利用すればさらに時間を要し現実的ではない。特に水産専攻は、志願者が多いと聞いている。久慈の漁業は厳しい環境にあるが、次の世代を育てなければ産業として継続できない。そうした中で、専攻課程がなくなり宮古に集約されるというのは、やはり問題である。下宿という選択肢は示されているが、そこまでして進学するかという点も課題であり、現状でも宮古に通学する久慈の高校生はほとんどいない。

当市としては若者の地元定着を重視し、キャリア教育にも取り組んできた。地元での選択肢が減ることは極めて重大な問題であり、今回の会議でも引き続き強く訴えていく考えである。

統合理由があることは理解しているが、市としては現状の形で選択肢が確保されるよう、強く求めていく姿勢に変わりはない。存続していただきたいという点を、強く申し上げたいと考えている。

平庭高原スキー場について

記 者 今シーズン、九戸村のスキー場が営業しないという話があるが、その分を平庭高原スキー場で受け止めるための対策はあるか。また、新たに整備した施設や、修繕した箇所はあるかお聞きしたい。

市 長 特段、新しいメニューを用意しているわけではないが、平庭は雪質がパウダースノーで非常に評価が高く、利用者が安定して確保できている。藤田杯スノーボード大会も毎年定員を大きく上回る申し込みがある。人気のスキー場であると認識している。冬のスポーツや雪に触れる機会は子どもたちにとって重要である。久慈市としても平庭観光開発株式会社と連携し、しっかりと営業を続けていきたいと考えている。

市 第1リフトの修繕の一部を完了しているとのことである。来年度以降も計画的に修繕していく予定である。

平庭高原白樺林再生協議会（最終報告会）について

記者 久慈市では「日本一美しい白樺林」と紹介しているが、今後の維持管理について、資料では令和8年度以降に本格化するとされている。今回の報告書提出後、協議会は役割を終えるのか、それとも今後も市と共に取り組むのか伺いたい。

市長 今回、具体的な整備方針をご提言いただく。ただし、久慈市のみで整備を進められるものではない。協議会には大学教員や国の森林関係の専門家など、多くの専門家が参加している。今後も整備を進めるにあたり、適宜助言をいただき、現地の状況を見ながら共に取り組んでいく必要がある。協議会は組織として今後も継続し、サポートを受けながら進めていきたいと考えている。

久慈育ち琥珀サーモン養殖開始について

記者 沿岸部では陸前高田市や大船渡市で大規模なサーモン養殖が進んでおり、産地間競争の可能性もあると思うが、久慈市としてどう受け止めているか。

市 県内でも大規模なサーモンプロジェクトが進んでおり、岩手県全体としてサーモンの一大産地となる契機であり、喜ばしいことと考えている。琥珀サーモンの知名度が上がることで、久慈のサーモンへの注目度も高まり、波及効果も期待できる。

産地間競争については、現在国内市場ではシロザケの歴史的不漁により供給不足が続いており、輸入や国内養殖で補っている状況である。しばらくは売り手優位の状態が続くとみている。

久慈市漁協では、山ぶどうの搾りかすを混ぜた餌を使用するなど、差別化を図っている。将来的にはブランディングを強化することが重要であると考えている。

記者 久慈市は漁協中心の取り組みであるが、大手水産会社が参入している地域もある。現時点で商業的な競争の可能性はあるか。

市 県南では大手が参入し、販路拡大に取り組んでいると聞いている。岩手県全体として「岩手サーモン」のブランド化が進められており、ロゴマークやキャッチフレーズの検討が行われている。久慈市としても、この流れに乗りながら取り組みを進めたいと考えている。

記者 県のブランド化について、今年度中に打ち出しがあるのか、スケジュール感を伺いたい。

市 県によれば、ロゴマークやキャッチフレーズについて早期に示したい意向があるとのことである。ただし、現段階で具体的に提示できる状況にはないとのことであった。

記者 今期の漁獲見込みについて伺いたい。

市 漁協によれば、イクスを2基増設し、この2基のイクスは、これまでより大型の生けすを使用すると聞いている。具体的な数字は確認が必要だが、200ト（合計1,000ト）程度多く水揚げする予定と伺っている。明日の12時頃から、漁場外の養魚場から運ばれた稚魚を作業船に積み、投入する形で開始される予定である。

遠藤市長の進退に関する説明および質疑応答について

市長 これまでも市議会等で話題にしてきたところであり、私の今期の市長任期は来年3月で終了することとなっている。いわゆる多選自粛条例を、市長就任1年目に自ら制定した経緯もあり、これは市民の皆さんに対する大きな約束であると考えている。今回はその条例に従い、来年3月をもって

市長職を退任したいと考えている。

この間、さまざまな出来事があった。東日本大震災からの復興など自分なりの公約を掲げて取り組んできたが、平成28年と令和元年の2度にわたり大型台風の直撃を受け、市内が大きな被害を受けた。この立て直しにも大きな労力を要した。その後は新型コロナウイルス感染症の拡大という、予測不能の事態に直面し、その対応にも追われた。また、国や県から日本海溝・千島海溝を震源とする大地震と津波が切迫しているとも示され、しっかりと対応するよう求められた。

本来、自分がやりたかったことを十分に実行できたかと言われると、じくじたる思いもあるが、その都度、何を優先して取り組むべきかを職員と相談しながら、優先順位を付けて進めてきたところである。結果として、公約に掲げた事項を十分に達成できたかと問われれば、なお悔いの残る部分もある。しかし、残された任期中、全力で課題解決に向けて取り組んでいきたいと考えている。

皆さんには、この間大変お世話になり、ご協力をいただいたことに改めて感謝申し上げる。きちんとした形でお伝えする場を設けたいと考え、今回このような場を設定した。市民の皆さんが遠藤が進めてきたことをどのように評価されるかについても、真摯に受け止めていかなければならないと考えている。

記者 3期までという多選自粛の条例を設けたご自身の判断について、今振り返って、どのように受け止めているのか。

市長 私が聞いているところでは、東北で多選自粛条例を持っている首長は私だけのようである。以前はもう少しいたのではないかとと思うが、任期の長い首長も全国にはおり、それはそれぞれの考え方と地域の状況によるものだと理解している。

私自身は前職が岩手県庁の職員で、県内外の自治体を見てきた。首長という職は責任が非常に重く、3期12年を務めるだけでも大変だと感じていた。これが4、5期と続けられる方というのは、よほどタフでなければ務まらないのではないかと思っている。

さらに、時代の変化は非常に速く、技術革新ひとつとってもどんどん変わっていく。そうした変化を理解する力がなければならぬし、組織の長として最終的な判断・決定を下す立場である。私自身、長くて12年という期間が一つの区切りになると考えており、その後は次の世代が担うべきポストであると考えていた。

3期12年という選択は、自分にとって妥当であったと今も思っている。「もう一回やったら」と声をかけてくださる市民もいるが、市民との大きな約束であり、自分がわきまえて判断しなければならぬ。

やり残したことは山ほどある。しかし、どれほど任期中を重ねても「すべてをやり切った」と言えるものではない。やり残した課題については、次の方がどう判断するかにもよるが、しっかり取り組んでいただきたいと考えている。

記者 公約を果たすためにも条例を外して続けてほしいという趣旨の声もあった。そのような声を聞いた時、心が揺れたり迷ったりすることはなかったのか。

市長 市民の皆さんの意見は実に様々である。続けてほしいという方もいれば、そうではない方もいる。その点は自分でわきまえるべきだと考えている。これまで12年間市長を務めてきて、人の意見がいかに多様であるかを身にしみて感じてきた。励ましの言葉をそのまま受け取ってよいのか、という迷いも当然ある。しかし、最終的に決めるのは自分自身であるという思いに変わりはない。

記者 3期12年の任期中で、特に印象に残っている仕事、どのようなことに取り組んだかをお聞きしたい。

市長 平成28年の台風10号は本当に大変だった。町の中心部では久慈川が越水し、泥水が一気に流れ込み、広範囲で建物の1階部分が泥に埋まる状況となった。私自身、現場を歩いたが、実際、どうやって收拾するのか、お店ももう再開できないのではないのか、大量の災害ごみをどう処理するのか、市民・被災者から次々と寄せられ、本当に災害対応の厳しさを身にしみて感じた。能登半島の津波・洪水の映像を見ると、久慈と同じような状況であり、当時の痛みが今もよみがえる。

久慈市は以前から財政的に厳しい状況で運営してきたが、その中で大きな災害を受け、さらに多くの経費が必要となった。しかし環境省、国交省、岩手県庁からも多くの支援をいただき、困った時に助けてくれる存在があると痛感した。

時間はかかったが、町も元に戻り、お店も再開した。市長として、どう復活させるか悩み続けた。令和元年には再び台風19号が来襲した。これまで台風の直撃を受けた経験のない地域にあつて、気象環境の変化も感じたが、職員も懸命に取り組み、皆で力を合わせれば何とかなるのだと実感した。

災害の映像を見るたびに当時の痛みがよみがえり、「何か協力できないか」という思いが常にあ

る。
新型コロナウイルスは終わりが見えず、国から次々と施策が降りてくる一方、生きるか死ぬかという状況であった。何ができるかを模索し続けたが、先が見えないというのは仕事をする上で極めて厳しいものであった。世の中は何が起きるかわからない、市民の生活を守るという仕事の責任を痛感した。

もちろん、これらは私一人ではできないものではなく、職員、市民の皆さんの力を借りながら進めてきた。まちづくりはみんなで行うものだと強く学んだ。

記者 やり残したことがまだ多くあるとのことだったが、市長として積み残したと感じる部分はあるか。

市長 現在、久慈湊小学校の移転新築工事に取りかかっているが、工事開始のタイミングで資材高騰、人件費高騰といった予想外の事態に巻き込まれている。中学校も来年3月で4校が閉校する。小学校も1校が閉校となる一方、存続する学校も老朽化が進んでいる。

市役所庁舎も浸水区域に位置しており、公共施設全般が老朽化している。アンバーホールも含め、修繕しなければならない施設が多くある。さらに避難所・避難路の整備も課題として山積している。しかし歳入は交付税を含め厳しさが増しており、限られた財源の中で優先順位を付けざるを得ない。

国と県には、確保してほしいと伝えているが、必ずしも良い回答が返ってくるとは限らない。結局は地元でやりくりしながら、一步一步、着実に進めていくしかないのだと感じている。

東京など財政的に豊かな自治体を見ると、このアンバランスを何とかできないのかと感じる。無駄遣いをしているわけではないが、苦しい自治体と余裕のある自治体が大きく分かれている。

市民からは子育て、医療、介護など、もっと頑張してほしいと言われるが、財源の制約の中で運営せざるを得ない。厳しい声も多いが、理解を得ながら一つ一つ課題をクリアしていかなければならない。これからの市町村経営はさらに大変になると考えている。

最大の問題は人口減少であり、これは交付税算定の基礎にも影響する。そのため洋上風力発電の事業にも取り組んでいるが、理解が得られず予定通り進まないなど、課題はまだ多い。

記者 市長は3期目で、日本海溝・千島海溝地震津波想定発表後の体制強化や避難目標地点の設定な

ど、さまざまな施策を進めてこられたと思うが、地震への備えについて、ある程度対策が整ったと捉えているのか。それとも、まだここはやりたかったという部分があるのか、振り返りを願いたい。

市長 自主防災組織の結成率は急速に伸び、現在は8割ほどまで整ってきている。また、防災士の養成も着実に進んでいる。しかし、津波対策・防災は「自主防を作ったら終わり」というほど簡単なものではない。組織を作った後、いざという時どこへ、どう避難するのか、手助けが必要な人はどこにいるのか、を地域ごとに具体的に共有する必要がある。住民だけでなく、地域外から来る方もいるし、高齢者施設、企業、学校など、地域ごとに多様な主体がある。それらとの連携をどう構築するかが重要である。

津波がいつ発生するかは分からない。春夏秋冬どの時期か、休日か平日か、真夜中か。その条件によって対応は大きく変わるため、訓練を積み重ね、あらゆる状況を想定しておかなければならない。

高齢化の進行で、一人暮らし、二人暮らしの高齢者が増え、歩行が困難な方も多い。家族も少数化しており、いざという時に手助けできる人が近くにいるとは限らない。最悪の場合、4,400人の犠牲が出るという想定も示されており、これを何としてもゼロにしたいという思いで市民の協力を得ながら進めている。

避難は原則徒歩を呼びかけているが、カムチャツカ地震でも多くが車避難となり大渋滞が発生した。訓練どおり人が動くわけではなく、その難しさも痛感している。訓練の参加率が上がってきたことは関心の高まりとして評価しているが、それだけで満足してよいとは考えていない。

東日本大震災の時には多くの人が、避難用リュックの重要性を実感したはずだが、今どれほどの人が準備しているのか疑問もある。高齢化が進んでいる中で、強制するわけにもいかないが、命を守るための備えだけは続けてほしい。

記者 条例で、3期・12年までという規定があることが大きいのではないかと感じているが、今回、勇退を決断した理由として、ほかにも何か考えている点があれば伺いたい。

市長 自分の性格や年齢を考えたことも理由である。ほとんど休みなく務めてきたが、今後も同じペースで続けられるのか、体力的・能力的な面でも衰えが出てくると感じている。仕事の進め方が悪いと言われればそうかもしれないが、できる限り市民の皆さんと会う機会を作り、話を聞く場を設けたいと考えてきた。大変な職務であると思っている。

記者 振り返りの中で、やりきった部分、やり残した部分についても言及があった。やりきれたと感じている点、あるいは市政として達成できたと捉えている手応えはあるか。

市長 市長選に出ようと思った当初は、もっと久慈を明るくしたい、公平公正で分かりやすい市政を実現したい、市民も職員も自由に物を言える雰囲気をつくりたいと考えていた。職員は優秀であり、皆でワイワイと議論できる環境が整えば、選択肢も広がると信じて取り組んできた。

市民や職員がどう感じているかが大事だが、街の雰囲気は少し変わったのではないかと感じている。ただ、やりきったと言えるほどのものではない。しかし、少しでも変わったと言っただけがあればありがたい。もう少しやればよいのに、続けてほしいと言われることは嬉しく思う。残り3か月、全力で努めたい。

記者 来年3月で任期が満了し、新たな市長が決まることになる。次の市長に期待すること、また久慈市の今後についてどのように捉えているか伺いたい。

市長 私がこれまでどう取り組んできたかはお伝えするつもりであるが、これを継続してほしいと言う

つもりはない。やってきたことは間違っていないかと思っているが、それをどう評価し、どう引き継ぐかは次の方と有権者が判断することだと思う。久慈市の今後は、次に選ばれる方がどのように考えるかに委ねられる。

記者 後継指名について、市長として、この人にやってほしいというお考えはあるのか。

市長 後継指名については考えていない。後継指名が本当に良いことなのかどうか、自分の中でも疑問がある。私がこの人と言うことになれば、次の市長が常に遠藤に相談しなければならない状況になりかねない。それは良くないと考えている。市民が自ら選ぶのが最も望ましい。

記者 基本的には、政治の立場からも身を引かれるという理解でよろしいか。

記者 今後のご予定について伺いたい。先ほど、政治はしないとおっしゃっていたが、ほかに何か考えていることはあるのか。

市長 はい。これまで自分なりにさまざま考えながら仕事をしてきたが、世の中には多くの課題を抱えている方々が大勢おり、支援活動をしている皆さんもたくさんいる。そうした分野のどこかには、今後関わっていきたいと考えている。生活に余裕のある方もいれば、自分の力だけではどうにもならない方もいる。そういう意味でも、ボランティアとして力になれる場所、関わらせていただける分野を考えているところである。特に何もなければ、朝の交通安全の旗振りもやりたいし、ゴミ拾いでも良いのではないかと考えている。

記者 3期12年を振り返り、残り4か月を残して、自己採点すると100点満点中何点か。

市長 おこがましくて、とても自分では点数を付けられない。市役所職員がどう見ているか、市民の皆さんがどう評価されるかが全てである。合格点と言えるわけでもないし、全く駄目だったとは思っていないが、点数化は勘弁いただきたい。

その時々で最善の策を考えてやってきたつもりである。財源が潤沢であれば市民の声すべてに応えたいが、そうもいかない中で優先順位をつけ、議会にも丁寧に情報提供してきた。職員もよく頑張ってくれたと思っている。

最近では若い人たちが市内で店を開いたり、全国から来た協力隊の皆さんが元気に活動している。市役所職員もそこにに関わり、街の雰囲気は良い方向に向かっているのではないかと感じている。

記者 ここで引退の意思表示をされたわけだが、議会で述べるケースや、県などの例も見聞きしてきた。今回、この懇談会の場を選んだ理由はあるのか。

市長 議会ではどうするのかという質問を受けその都度答えてきたが、次の議会では質問は出ない見込みで、こうした場を設けることが適切ではないかと思い、この場で表明するに至った。

以上

報道機関との定例懇談会 提供資料

日時：令和7年12月2日(火) 13:15～

場所：市長応接室

番号	資料名等	担当課	備考
1	主要行事予定	各課共通	
2	久慈地域障がい者アート作品展	社会福祉課	
3	第九演奏会	文化課	
4	令和7年度冬の交通事故防止県民運動	生活環境課	
5	人材確保セミナー	企業立地課	
6	竹生企画第四弾「マイクロバスと安定」	文化課	
7	平庭高原スキー場オープン	産業建設課	
8	令和8年市民新年交賀会	生活環境課	
9	久慈市市制施行20周年記念式典	総務課	

久慈地域障がい者アート作品展

今年も、地域の障害福祉サービス事業所、地域活動支援センター、自主活動グループなどが制作した作品を展示します

素敵な作品が皆さんをお待ちしております。ぜひ、ご来場ください！

「お気に入りの作品」への投票にご協力を！！



【会期】

令和7年 **12月4日**（木） ※12月9日（火）休館日
～ **12月10日**（水） 15時30分

【会場】

久慈市文化会館（**アンバーホール**）1階エントランスホール

【参加事業所】

- ①地域活動支援いっば ②就労継続支援A型・B型事業所ぎゅっと。
- ③NPO法人琥珀の泉 地域活動支援センター ④生活訓練施設銀杏荘
- ⑤ひばりデイサービスセンター ⑥ひばり療護園
- ⑦地域活動支援センターはあと舎 ⑧みずき園
- ⑨自主グループしらかば会 ⑩特定非営利活動法人六花

【来場者アンケートの実施】

来場者が展示作品の中から「お気に入りの作品」を最大3点選んで投票、得票数の多い作品の制作者を表彰します。

主催：久慈地域障害者自立支援協議会

【作品展事務局：県北広域振興局保健福祉環境部 電話 0194-53-4982】



「第九」は何を歌っているのか？
歌詞（シラー）と音楽（ベートーヴェン）が呼びかける人類全体へのメッセージ



指揮
茂木 大輔

第九

演奏会

Program

- ・ベートーヴェン：戦争交響曲「ウェリントンの勝利」
＜久慈広域の中学生から一般がトランペットと打楽器として出演＞
- ・ベートーヴェン：交響曲第9番（合唱付き）

2025年
12月14日(日)

14：30 開演（14：00 開場）

※14：15 から指揮者によるプレトーク

アンバーホール 大ホール



ソプラノ
種谷 典子
@STUDIO KUMU



メゾソプラノ
鳥木 弥生
@takumi jun



テノール
片寄 純也



バリトン
奥村 泰憲

Ticket

（全席指定・税込）

S席：3,000円（友の会 2,500円）

A席：2,000円（友の会 1,500円）

※高校生以下は無料（A席のみ）、未就学児入場不可

合唱：市民合唱団、岩手県・八戸市の声楽家

合唱指導：小原 一穂、間口 友美

管弦楽：仙台フィルハーモニー管弦楽団



久慈広域の市民合唱団、岩手県・八戸市の声楽家と仙台フィルハーモニー管弦楽団のコラボレーションをお届け



主催：久慈市文化会館
後援：岩手日報社、デーリー東北新聞社、めんこいテレビ、エフエム岩手
問合せ：久慈市文化会館（アンバーホール）久慈市川崎町 17-1
TEL：0194-52-2700 / e-mail：ahall@city.kuji.iwate.jp

会館HP



【プレイガイド】

アンバーホール（TEL：0194-52-2700）

ローソンチケット / Lコード：21806

本公演は、久慈市文化会館芸術監督の企画による「久慈・ベートーヴェン交響曲連戦演奏会」シリーズの集大成となります。23年ぶりに久慈で響く第九とともに、地域の力を結集した特別な舞台です。戦争交響曲「ウェリントンの勝利」では、久慈広域の中学生から一般までが参加し、トランペットと打楽器として仙台フィルハーモニー管弦楽団と共演。事前に実施したバンドクリニックで学んだ成果を生かし、イギリス軍とフランス軍に分かれての迫力ある掛け合いを披露します。「交響曲第九番」では、4月から第九ワークショップで研鑽を積んできた市民合唱団をはじめ、岩手県・八戸市の声楽家も加わり、総勢約120名の合唱団が出演。ソリストと合唱団の力強い歌声と仙台フィルの重厚な響きの共演を、ぜひ会場でお楽しみください。



指揮：茂木 大輔

ミュンヘン国立音楽大学大学院修了(オーボエ専攻)、1986年からシュトゥットガルト・フィルハーモニー管弦楽団の第1オーボエ奏者を経て、1990年から30年に渡りNHK交響楽団首席オーボエ奏者を務めた。2018年、その功績によりN響より「有馬賞」受賞。1996年からは指揮活動も開始。オーケストラの楽器やバッハの教会音楽、ベートーヴェンのシンフォニーなどの解説コンサートで全国的に活躍。二ノ宮知子「のだめカンタービレ」原作に取材協力、映像でクラシック音楽監修を務め、自ら企画・指揮する「生で聴く“のだめカンタービレ”の音楽会」を全国展開。100回を超えて継続中。2019年3月にN響を定年退職するとともに、専業の指揮者としての活動を開始した。上記の活動を通じて現在までに仙台フィル、アンサンブル金沢、東京フィル、山形交響楽団、群馬交響楽団、京都市響、関西フィル、日本センチュリー交響楽団、兵庫PAC、広島交響楽団、九州交響楽団、琉球交響楽団など多数の団体を指揮している。N響在団中の2009年より、4年間にわたって東京音楽大学および大学院にて指揮を学ぶ。指揮を故岩城宏之、故外山雄三、故上淳一の各氏に師事。執筆でも知られ、「交響録・N響で出会った名指揮者たち」最新刊「名曲の曲名」(音楽之友社)など多数の著書がある。



ソプラノ：種谷 典子

国立音楽大学大学院、新国立劇場オペラ研修所修了後、渡欧。二期会『椿姫』題名役、『フィガロの結婚』スザンナ、『コジ・ファン・トゥッテ』フィオルディリージ、新国立劇場『魔笛』パパゲーナ等で好評を博す他、マカオ管弦楽団に招聘され「第九」にソリストとして出演。日本音楽コンクール第2位入賞。二期会会員



メゾソプラノ：鳥木 弥生

石川県七尾市出身。フィレンツェ市立歌劇場公演でオペラデビューし国内外で活躍。2018年新国立劇場「ファルスタッフ」2019年「エウゲニ・オネーギン」に出演のほか、「蝶々夫人」(スズキ役)「カルメン」に出演し高い評価を受ける。洗足学園音楽大学講師。



テノール：片寄 純也

国立音楽大学卒業。『椿姫』アルフレードでオペラデビュー。以降、二期会『タンホイザー』題名役、『カルメン』ドン・ホセ、『サロメ』ヘロデ、新国立劇場『ラインの黄金』フロー等の他、東京春祭での子どものためのワーグナー『パルジファル』題名役等で好評を博している。二期会会員



バリトン：奥村 泰憲

広島少年合唱隊出身。エリザベト音楽大学宗教音楽学科卒業、同大学院修了。セルビア、ルーマニア、オーストリアに留学。メサイヤ、第九など独唱を約120作品歌い、オペラでは50の役を演ずる。シェーンベルク合唱団、BCJの公演や録音に参加。2012年帰国。東京大学音楽部講師。



管弦楽：仙台フィルハーモニー管弦楽団

1973年創立。常任指揮者 高関健、指揮者 太田弦のもと充実した活動を展開している。東日本大震災後は音楽を被災者のもとに届け絆をつむぎ、2011年度エクソンモービル音楽賞本賞、渡邊曉雄音楽基金特別支援を受賞。現在、「杜の都」仙台を拠点に東北地方を中心に年100回を超える演奏活動を繰り広げ、豊かな音楽が広く親しまれている。



市民合唱団

4月から約120名が第九ワークショップへ参加しています♪



「第九」の歌詞解説

歌詞の内容は、分かってから聴くと大変感動的なものです。動画での解説をオンラインでご覧いただけます。

※9月中旬以降にオンライン配信予定
詳細はHPをご覧ください♪



- 八戸～久慈間バス
運行協力金：1,000円/人(往復)
定員：28名(定員になり次第終了)
往路/12：30八戸駅西口発
13：00八戸市庁前ロータリー発
14：00アンバーホール着
- 復路/終演15分後出発(16：45頃)
※12月7日(日)締切(要電話予約)
- 託児所
料金：無料(飲食物等は持参ください)
定員：8名(定員になり次第終了)
対象：満1歳～小学2年生程度
※12月7日(日)締切(要電話予約)
- 申込先
アンバーホール (TEL:0194-52-2700)



令和7年度冬の交通事故防止県民運動実施要領

1 実施期間

令和7年12月15日(月)から12月24日(水)までの10日間

2 運動の趣旨

冬季は、積雪や凍結による道路環境の悪化に伴う交通事故や冬休み中のこどもが関係する交通事故の発生が懸念されることから、交通ルールの遵守と交通マナーの実践により、交通事故防止の徹底を図る。

3 運動の重点

- ① スピードダウンの徹底
- ② 高齢者と冬休み中のこどもの交通事故防止
- ③ 飲酒運転の根絶
- ④ 冬道用タイヤ装着の徹底

4 スローガン

「飲む前に 車じゃないよね? 再確認」

5 推進事項

推進主体	推 進 事 項
家庭では	<ul style="list-style-type: none"> ○ 車両はスピードが出るほど危険性が増すことを認識し、市街地や交差点、カーブ等ではスピードダウンを心掛け、安全なスピードで走行するよう注意し合う。 ○ 夕暮れ時以降の外出時は、家族全員が反射材用品等の着用を習慣付け、安全な横断方法を実践する。 ○ 事故に遭わない、起こさないために「止まる-見る-待つ」の交通安全行動を習慣付ける。 ○ 高齢運転者に対して、悪天候時や体調不良時は運転を控えるなどの補償運転^{*1}を促すほか、運転免許証の自主返納について話し合う。 ○ 飲酒運転の危険性や違法性を話し合い、「飲酒運転4（し）ない運動」を実践し、家庭から飲酒運転を許さない社会環境を醸成する。 ○ 冬道用タイヤの装着確認や冬道の危険性・特徴について声を掛け合うなどし、「冬道の安全運転（いち、にっ、さん運動）」を実践し、交通事故を防止する。
地域・職場・学校では	<ul style="list-style-type: none"> ○ 町内会、自治会、母の会、老人クラブ等は、高齢者やこどもを中心とした交通安全講習会を開催し、地域全体で交通安全意識を高める。 ○ 各種行事や学校でのホームルーム等を活用し、こどもの冬休み期間中における交通事故防止について意識を高めるほか、保護者に対する注意喚起を行う。 ○ 飲酒運転の危険性や違法性について従業員等に指導するとともに、ハンドルキーパー運動^{*2}の周知や運転者の運転前後のアルコールチェックを確実に実施するなど、飲酒運転を絶対に「しない」「させない」「許さない」を徹底する。 ○ 飲酒する際は、あらかじめ同席する者同士で帰宅方法を確認するなど、飲酒運転の根絶を図る。 ○ 職場内における朝礼・会議等を利用して交通安全啓発を行う。また、自動車運転者には、午後4時からのライトの早め点灯、原則上向きライト走行など「3（サン）ライト運動」の実践を推奨するとともに、ながらスマホの禁止を呼び掛ける。 ○ 安全性を確認した冬道用タイヤへの交換を徹底させ、職場全体で「冬道の安全運転（いち、にっ、さん運動）」を実践する。 ○ ゆとりのある運転計画を立て、気象情報に基づいた適切な指示を行うなど、安全運転管理を徹底する。
関係機関・団体では	<ul style="list-style-type: none"> ○ スピードがもたらす危険性等の啓発活動を推進し、スピードダウンの意識付けを図る。 ○ 飲酒運転に伴う運転者・同乗者・酒類提供者等に対する処罰規定を周知し、ハンドルキーパー運動やアルコール検知器の活用を促進し、飲酒運転の根絶を図る。 ○ 午後4時からのライトの早め点灯、原則上向きライト走行、反射材用品等の着用などの模範的な交行動を示す。 ○ 各種広報媒体等を通じて、「冬道の安全運転（いち、にっ、さん運動）」の実践や冬道用タイヤ装着などの広報を推進する。

運転者は	<ul style="list-style-type: none"> ○ 天候・路面状況に応じた確実なスピードダウンなど冬道の安全運転（いち、にっ、さん運動）の実践により、スリップ事故を防止するとともに、歩行者や自転車の安全を確保する。 ○ 高齢運転者は、身体機能の変化や運転技能の低下を自覚し、悪天候時は運転を控えるなど、自己の運転技能に応じた無理のない運転を心掛ける。 ○ 飲酒運転の危険性、違法性、責任の重大性を認識し、飲酒運転は絶対にしない。 ○ 安全性を確認した冬道用タイヤへの交換を徹底し、積雪・凍結路の走行に備える。
自転車利用者は	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自転車も車両であることを再確認し、罰則が強化されたながらスマホをはじめ、飲酒運転の禁止等の「自転車安全利用五則」を遵守する。 ○ 歩道は、歩行者優先であることから、歩行者の通行を妨げる時は必ず一時停止する。 ○ 夕暮れ時や夜間は、他の車両や歩行者から見えにくいことを理解し、早めにライトを点灯するほか反射材用品等を活用する。 ○ 乗車時の頭部保護の重要性とヘルメット着用の被害軽減効果について理解し、ヘルメットを着用する。 ○ 加害者となる事故に備え、自身と相手を守るため、自転車損害賠償責任保険等への加入に努める ○ 乗車前等、適切な点検・整備を実施し、安全利用に努める。 ○ 悪天候時や路面凍結時、体調不良時等の安全に自転車が利用できない場合は利用を控えるよう努める。
歩行者は	<ul style="list-style-type: none"> ○ 道路横断の際は、横断歩道を渡り、横断歩道がない場合には、明るい場所や見通しの良い安全な場所を選び横断する。横断時は、「止まる-見る-待つ」の交通安全行動の徹底と左右の安全確認、手を上げるなどの「ハンド・コミュニケーション」を実践し、無理な横断はしない。 ○ 夕暮れ時以降の外出時には、反射材用品等を着用する。 ○ 高齢者は、夕暮れ時や夜間の交通事故の被害に遭うリスクの高い時間帯の外出を控えるよう努め、外出時は、明るい目立つ色の服装と反射材用品等を着用する。また、加齢による身体機能の変化を認識し、余裕を持った横断をする。

- 《飲酒運転4(し)ない運動》**
- 1 運転するなら酒を飲まない。
 - 2 運転する人に酒を提供しない。
 - 3 酒を飲んだ人に車を提供しない。
 - 4 酒を飲んだ人の車に同乗しない。

- 《安全運転五則》**
- 1 安全速度を必ず守る。
 - 2 カーブの手前でスピードを落とす。
 - 3 交差点では必ず安全を確かめる。
 - 4 一時停止で横断者の安全を守る。
 - 5 飲酒運転は絶対にしない。

- 《冬道の安全運転(いち、にっ、さん運動)》**
- 1 一割スピードダウンしよう。
 - 2 二倍の車間距離をとろう。
 - 3 三分早めに出発しよう

- 《自転車安全利用五則》**
- 1 車道が原則、左側を通行
歩道は例外、歩行者を優先
 - 2 交差点では信号と一時停止を守って、安全確認
 - 3 夜間はライトを点灯
 - 4 飲酒運転は禁止
 - 5 ヘルメットを着用

- 《3(サン)ライト運動》**
- 1 ライトの早め点灯・原則上向きライト
(ハイビーム) 走行
 - 2 反射材用品、LEDライト等の着用
 - 3 右からの横断者、左からの車に注意

- ※1 危険を避けるため、運転する時と場所を選択し、運転能力が発揮できるよう心身及び環境を整え、加齢に伴う運転技能の低下を補うような運転方法を探ること。
- ※2 自動車で飲食店等に行く場合、酒類を飲まない人(ハンドルキーパー)を決め、その人が、仲間を安全に自宅まで送り届ける運動。

～働きやすい職場作りを考えてみませんか？～

人材確保セミナー

参加無料
要事前申込
定員100名

人材確保に役立つ情報をお伝えします！是非ご参加ください！

開催日 令和 **7** 年 **12** 月 **19** 日 (金)

時間 **13:30**～**15:35** (受付 13:10～)

場所 久慈市役所 3階 大会議室 (久慈市川崎町1-1)

対象 久慈公共職業安定所管内の事業所

内 容

- ① 人材確保に役立つ認定制度について
講師：岩手労働局 雇用環境・均等室
- ② アンコンシャスバイアスから考える企業の取り組み
講師：岩手県北広域振興局経営企画部
- ③ 久慈市人口ビジョンと若者雇用対策事業
講師：久慈市総合戦略課・企業立地課
- ④ 雇用管理で留意すべき労働関係法令のポイント
講師：二戸労働基準監督署
- ⑤ 選ばれる求人票とは
講師：久慈公共職業安定所

【お問い合わせ・お申し込み】

久慈公共職業安定所
TEL 0194-53-3374

お申込はこちらから▶



【主催】 久慈公共職業安定所

【共催】 岩手県北広域振興局 岩手労働局雇用・均等室
久慈市総合戦略課・企業立地課 二戸労働基準監督署

出演

竹中直人
生瀬勝久

飯豊まりえ
戸塚純貴

サリngROCK
松浦りょう
浜野謙太

竹生企画
第四弾

マイン 安とク 定ロ バス

作・演出
倉持裕



アンバーホール 大ホール

2025年12月21日[日]14時00分 開演

市制施行



「終わり」がちらつく

小惑星の衝突によって世界が滅亡すると発表されてからしばらく経って、
だったらこれまでしてこなかったことをして生きようという者と、
これまでと変わらず生きようとする者とに分かれ、
それぞれ別々のブロックで暮らすことになる。
舞台は後者のブロックにある一軒家。
滅亡までは約三年。

「終わり」が目の前をちらつくたびに
それまで自分でも聞いたことのない唸り声を漏らしてしまうけれど、
それでも「いつもどおりいつもどおり」と
今までにない星がひとつ増えた空の下で生きる人々の物語。

竹生企画とは…

生瀬勝久のなかに芽生えた「竹中直人さんと二人芝居がやりたい!」という俳優ならではの「欲望」。そんな「欲望」を発端に、屈指の超個性派俳優であり、クリエイターでもある竹中・生瀬二人のユニット「竹生企画」は、当時竹中が「一緒に芝居づくりを」と熱望していた倉持裕を劇作・演出に招き、2011年に始動した。倉持裕の物事を独自のシニカルな視点で切りとり緻密なストーリー展開を保つ巧みさと、竹中・生瀬をはじめとする個性的な出演者たちの絶妙なセリフの応酬と間で観客を惹きつけている。



竹中直人

生瀬勝久

飯豊まりえ

戸塚純貴



作・演出 倉持裕

サリngROCK

松浦りょう

浜野謙太

☆スタッフ

音楽 = 栗コーダーカルテット 美術 = 中根聡子 照明 = 杉本公亮 音響 = 高塩類 衣裳 = 高木阿友子 ヘアメイク = 宮内宏明 演出助手 = 相田剛志 舞台監督 = 齋藤英明
宣伝美術 = 有山達也 宣伝撮影 = 久家靖秀 宣伝衣裳・小道具 = 田中美和子 宣伝ヘアメイク = 廣瀬瑠美
宣伝小道具制作・絵画 = ワタナベケンイチ パンフレット編集 = 金田明子 印刷 = プーベ
協力 = M&Oplays レディバード リコモーション エイベックス・マネジメント・エージェンシー ボックスコーポレーション パパドゥ カクバリズム
制作 = 重松あかり 滑川優里 旦部遥奈 票券 = 家氏里奈子 広報宣伝 = 北里美織子 プロデューサー = 高橋典子 プロデューサー補 = 浅見亜希子 製作 = 北牧裕幸

アンバーホール 大ホール (〒028-0051 久慈市川崎町17-1)

2025年12月21日[日] 開場/13時30分 開演/14時00分

*チケット料金 (全席指定・税込)

S席 8,000円 A席 5,000円 ※友の会割引 1,000円

※未就学児の入場はご遠慮ください。
※やむを得ない事情により、出演者などが変更となる場合がございます。
予めご了承ください。

*プレイガイド

アンバーホール (TEL:0194-52-2700)
ローソンチケット / Lコード:22026

*託児所

料金: 無料 (飲食物等は持参ください)
定員: 8名 (定員になり次第終了)
対象: 満1歳~小学2年生程度
※12月12日(金) 締切 (要電話予約)



【主催】久慈市教育委員会
お問合せ/アンバーホール TEL:0194-52-2700
(9:00 ~ 18:00 / 火曜休み)

アンバーホールHP



2025▶2026 ENJOY SKI WORLD

イベントご案内



平庭高原スキー場まつり
2026.2.14(sat)

ニューイヤースティバル
1月1日(木)・新春もちつき大会
午前11:00～・お楽しみジャンケン大会



スキーこどもの日
毎月第3日曜日
対象:小学生
通常1,980円 ⇒ **660円**
リフト1日券

ACCESS

- 戸** 東北自動車道八戸線(八戸IC)経由
車で1時間
- 久慈** 28号線
車で20分 バス50分
- 盛岡** 国道4号・28号線
車で1時間 徒歩2時間



平庭高原
スキー場

リフト料金		使用料
1回券	一般	240円
	児童・生徒 及び60歳以上	150円
午前券・午後券 午前/9時から13時 午後/12時から16時	一般	1,430円
	児童・生徒 及び60歳以上	1,100円
1日券 上段/日曜日 下段/日曜日 及び自営日	一般	2,750円
	児童・生徒 及び60歳以上	2,200円
シーズン券	一般	1,980円
	児童・生徒 及び60歳以上	1,100円
幼児のリフト料金は無料 (但し、必ず保護者の同伴が必要です。)		22,000円
幼児・生徒 及び60歳以上		11,000円
レンタル料金		
スキー3点セット	スキー・ブーツ・ストック	3,300円
スノーボード2点セット	ボード・ブーツ	3,300円
その他	ウェア	2,700円

●営業時間/9:00～16:00 ●営業期間/12月20日出～3月31日(火)
●駐車場/3カ所 600台/無料
●平庭高原スキースクール(SAJ所属)
令和7年12月下旬～令和8年3月上旬
開校日
12月、1月:土日祝祭日開校
2月、3月:日曜のみ開校

平庭観光開発株式会社
平庭高原スキー場



<https://hiraniwa.com/>
岩手県久慈市山形町来内20-13-1
平庭高原スキー場 ☎0194(72)2944
宿泊予約平庭山荘 ☎0194(72)2700

岩手県 平庭高原
久慈市
白樺美林
310,000本を超える 日本一の巨杉ロードへ

2025-2026
平庭高原
スキー場



POWDER SNOW-HIRANIWA
白銀の世界へ



イベント情報

1月1日(木) 11:00～
ニューイヤースティバル
2月14日(土) 11:00～
平庭高原スキー場まつり

幼児の
リフト券無料

資料7

平庭観光開発株式会社

スキー&スノーボード全面滑走可能！ 変化に富んだ全10コース

- 第一ベアリスト / 728 m
- 第二ベアリスト / 710 m
- 第三ベアリスト / 530 m

- ハーフパイプ
- 初級者コース
- 中級者コース
- 上級者コース

A ハーフパイプコース

滑走距離 550 m。コース前半部は全長 100 m のハーフパイプ、後半部は広い緩斜面で初心者の練習バーンとして最適。

B 中央ゲレンデ

滑走距離 550 m。広く整備されたこのコースは適度な緩斜面でビギナーやファミリーにピッタリです。

C かもしかコース

滑走距離 800 m。緩急の差がなく、比較的平平均された斜面。コース幅も広く快適なクルージングが楽しめます。

D しらかばコース

滑走距離 900 m。スタート地点はちょっと急ですが、コースを幅いっぱいを使って滑れば大丈夫。後半は、なだらかな緩斜面が続きます。

E 連絡コース

滑走距離 200 m。このコースからかもしかコースを経由して第1リフト乗り場まで、初級者でも 1.5 km のダウンヒルを楽しむことができます。

F ラビットコース

滑走距離 900 m。緩急の変化に富んだコース。中間の急斜面は勇気を持ってトライ。しらかばコースからのスキーマーとの合流に注意。

G チャンピオンコース

滑走距離 750 m。第2ベアリスト沿いに滑走する上級者コース。新雪・深雪が楽しめます。

H チャレンジコース

滑走距離 750 m。スタート地点は 30 度の壁とコブ斜面が待ち受けています。リフトのギャラリーの熱い視線を奮めて腕の見せどころ。Let's challenge!

I リーゼンコース

滑走距離 800 m。ジャイアントスラローム気分でのビュンビュン飛ばそう。でも暴走しないようしっかりスピードコントロールしましょうね。

J 迂回コース

滑走距離 200 m。リーゼンコースに隣接した回り道。ボーゲンができれば O.K。合流地点では上からのスキーマーに注意。

35万本の白樺林が あなたを迎えてくれる。



広大な白樺林の中を
滑りぬける爽快感は、
まさにスキーの醍醐味そのもの。
雪質はもちろん
昼食のハーフコースー。
変化に富んだ全10コースは
初心者から上級者まで
楽しめます。

▶ 平庭山荘でリフレッシュ！



**センターハウス
平庭山荘**
◎施設案内◎

木造ならではの安らぎを感じさせるインテリアと、自慢の名物料理がおすすめの「センターハウス平庭山荘」をご利用ください。

- 施設概要
- ロビー及び展示室 / 管理室(事務所) / レストラン(56名収容) / 研修室(会議は50名・宿泊は28名) / 宿泊室(2人室が4室、4人室が5室) / 電話室(いりりの部屋) / 大浴場「しらかばの湯」男女とも40名収容(サウナ付) / 白樺ホール(250名収容)
- 宿泊最大が268名様まで(体館・コテージの最大収容人員)



- 宿泊料金
- 和室 1室4名様まで 10,000円
- 洋室 A (バス・トイレ付き) 11,500円
- コテージ シャワータイプ 1~4名 9,800円 (5名以上 9,400円)
- バスタイプ パスタタイプ 1~4名 10,500円 (5名以上 10,100円)
- 入浴料金 大人 520円 小学生 260円

スキー宿泊プラン 1泊2食リフト1日券付き

期間: 12月末日(オープン日より)
3月8日(日)まで

※洋室C・和室・コテージ限定
※リフト券は当日または翌日のご利用となります
※夕食は、和食膳となります

大人 12,000円
小学生 8,500円

アフタースキーは

スキーの後は、しらかばの湯でリフレッシュ！

リフト1日券購入で入浴料が半額の260円になります。シーズン券購入の場合は、1日1回入浴料が半額になります。受付の際、リフト券をフロントへご提示下さい。 ※中学生以上が対象です。

令和7年11月6日

役 員 各 位

平庭観光開発株式会社
代表取締役 下館 満吉

平庭高原スキー場安全祈願の開催について（ご案内）

初冬の候、皆様におかれましては益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

弊社は、平庭高原スキー場の今シーズン12月20日（土）のオープンに向けて準備を進めている所でございます。

つきましては、今後一層のご愛顧、ご支援を賜りたく、下記のとおりスキー場安全祈願の小宴を開催いたしたいと思っております。ご多忙の折、誠に恐縮に存じますが、ご臨席賜りますようご案内申し上げます。

記

日 時 : 令和7年12月3日（水） 午前11時から

場 所 : 平庭高原スキー場（レストハウス千春の施設内において）

※お手数ではございますが、ご参加の有無を11月28日（金）までに御連絡下さいますようお願いいたします。

連絡先：平庭山荘 TEL 0194-72-2700

「令和 8 年市民新年交賀会」実施要項

1 趣 旨

新年の幕開けに当たり、市民が一堂に会し、市勢発展への決意を新たにするとともに、今後の飛躍を互いに誓い合うことを趣旨として実施する。

2 主 催

市民新年交賀会実行委員会

3 日 時

令和 8 年 1 月 5 日（月）午前 11 時～正午

4 会 場

久慈グランドホテル

5 会 費

1 人 4,000 円

6 定 員

270 名程度

7 招待発送来賓（国会及び県議会議員）

- (1) 衆議院議員 鈴木 俊一 氏
- (2) 参議院議員 横澤 高德 氏／木戸口 英司 氏
- (3) 県議会議員 工藤 大輔 氏／中平 均 氏
- (4) 市議会議長 濱欠 明宏 氏

8 内容

- (1) 開会
- (2) 主催者あいさつ（遠藤市長）
- (3) 来賓あいさつ（国会議員）※本人出席の場合のみ、県議会議員はあいさつなし
- (4) 祝電披露
- (5) 乾杯（濱欠議長）
- (6) 懇談
- (7) 中締め（山王会頭）

(様式)

担当課	総務課
標題 (行事名)	久慈市市制施行 20 周年記念式典
開催日時	2 月 15 日 (日) 13 時から
会場	アンバーホール
事業の概要	<p>1 趣旨 平成 18 年 3 月 6 日、旧久慈市と旧山形村とが合併し、新久慈市が誕生してから 20 周年を迎えることから「久慈市市制施行 20 周年記念式典」を開催する。</p> <p>2 主催 久慈市</p> <p>3 日時 令和 8 年 2 月 15 日 (日) 13 : 00 ~ 15 : 30</p> <p>4 会場 久慈市文化会館 大ホール</p> <p>5 対象者 1,000 人程度 (1) 受賞者 (2) 地元国会議員 (3) 地元県議会議員 (4) 市議会議員 (5) 関係機関等 (6) 関係団体等 (7) 市民</p> <p>6 実施内容 (1) 市制施行 20 周年市勢功労者表彰 (2) 市制施行 20 周年記念講演 講師 尾木直樹 氏 演題 「尾木ママ流 共感子育て」</p>
その他	